

月桃

□□□□□□

【作詞】海勢頭 豊

【作曲】海勢頭 豊

1. 月桃ゆれて 花咲けば
夏のたよりは 南風
緑は萌える うりずんの
ふるさとの夏

(春先から初夏にかかる季節を沖縄では「うりずん」と呼んでいます。新緑が萌え、さわやかな南風の季節です。月桃の葉も太陽に映え美しい緑色に輝きます。)

2. 月桃白い花のかんざし
村のはずれの石垣に
手に取る人も 今はいない
ふるさとの夏

(昔は月桃の花を女の子達が髪飾りにして遊んでいました。いまは目に止める人もなく、ただひっそりと咲いています。)

3. 摩文仁の丘の 祈りの歌に
夏の真昼は 青い空
誓いの言葉 今も新たな
ふるさとの夏

(今年も摩文仁の慰霊祭では祈りの歌が流れ、人々が不戦の「誓い」を新たにします。)

4. 海はまぶしい キャンの岬に
寄せくる波は 変わらねど
変わるはてない 浮世の情け
ふるさとの夏

(「喜屋武岬」に寄せて来る波は多くの人々が身を投げたあの時と同じ。あの深い悲しみは藻屑(もくず)のように消えていくのか。人の心は年月の流れとともに変わっていく。これが「浮き世の情け」というものか。)

5. 六月二十三日待たず
月桃の花 散りました
長い長い 煙たなびく
ふるさとの夏

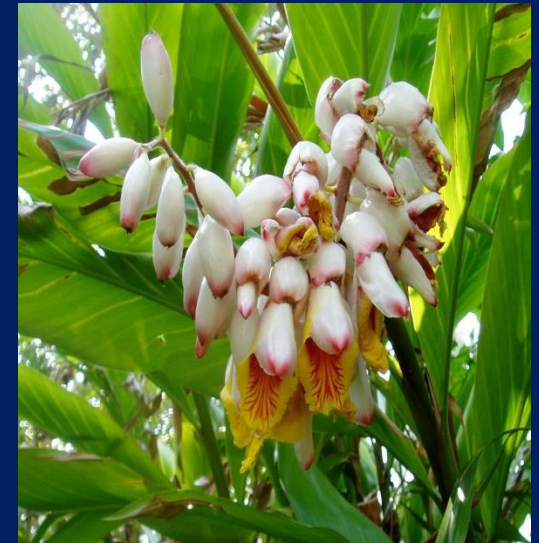
(せめて沖縄戦が終結した6月23日までは咲いてはしかった月桃の花も、それを待ってくれず散ってしまった。ただ「慰霊」の線香の煙だけが心の余韻のように長い尾を引いています。)

6. 香れよ香れ 月桃の花
永久(とわ)に咲く身の 花心
変わらぬ命 変わらぬ心
ふるさとの夏

【作詞】海勢頭 豊

【作曲】海勢頭 豊

1. 月桃ゆれて 花咲けば 夏のたよりは 南風 緑は萌える うりずんの ふるさとの夏



(春先から初夏にかかる季節を沖縄では「うりずん」と呼んでいます。

新緑が萌え、さわやかな南風の季節です。

月桃の葉も太陽に映え美しい緑色に輝きます。)

【作詞】海勢頭 豊

【作曲】海勢頭 豊

2.

月桃 白い花のかんざし
村のはずれの石垣に
手に取る人も 今はいない
ふるさとの夏



(昔は月桃の花を女の子達が髪飾りにして遊んでいました。いまは目に止める人もなく、ただひっそりと咲いています。)

【作詞】海勢頭 豊

【作曲】海勢頭 豊

3. 摩文仁の丘の 祈りの歌に 夏の真昼は 青い空 誓いの言葉 今も新たな ふるさとの夏

(今年も摩文仁の慰霊祭では祈りの歌が流れ、
人々が不戦の「誓い」を
新たにします。)



4. 海はまぶしい キャンの岬に 寄せくる波は 変わらねど 変わるはてない 浮世の情け ふるさとの夏



(「喜屋武岬」に寄せて来る波は多くの人々が身を投げたあの時と同じ。あの深い悲しみは藻屑(もくず)のように消えていくのか。人の心は年月の流れとともに変わっていく。これが「浮き世の情け」というものか。)

月桃



【作詞】海勢頭 豊

【作曲】海勢頭 豊

5. 六月二十三日待たず 月桃の花 散りました 長い長い 煙たなびく ふるさとの夏

(せめて沖縄戦が終結した6月23日までは咲いて
ほしかった月桃の花も、それを待ってくれず
散ってしまった。ただ「慰霊」の線香の煙だけが
心の余韻のように長い尾を引いています。)



6. 香れよ香れ 月桃の花 永久(とわ)に咲く身の 花心 変わらぬ命 変わらぬ心 ふるさとの夏

(月桃の花ー永遠に失わない命と変わらない心を持って人々を見守り語り続けてほしい。あの記憶を決して失わないために。)